



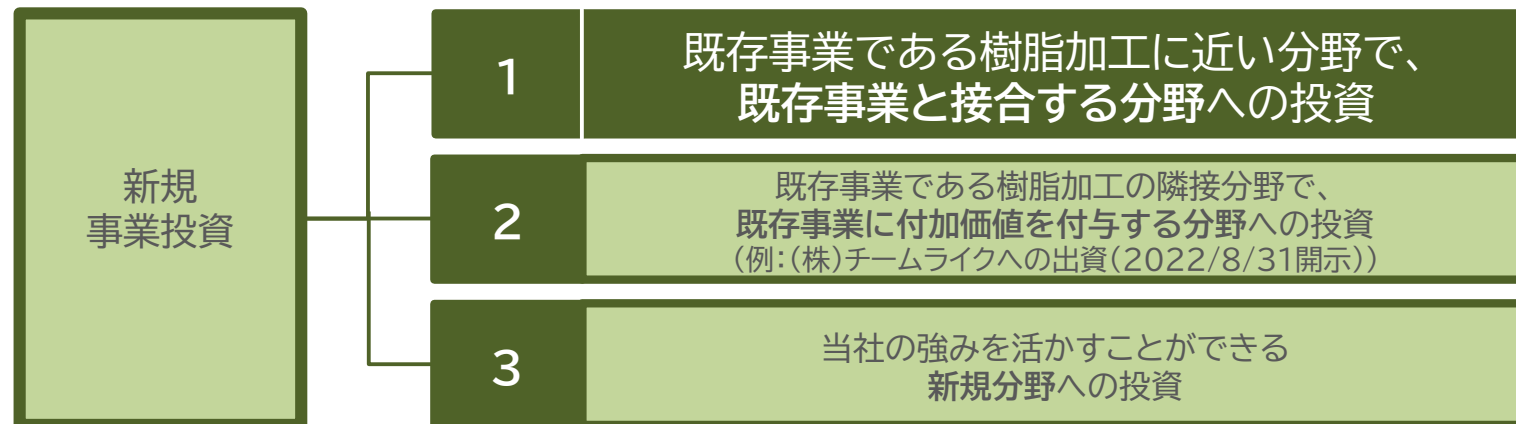
# 2023年3月期決算 補足説明資料

2023年 5月12日(金)

ウェーブロックホールディングス株式会社  
証券コード:7940  
(東証スタンダード市場)

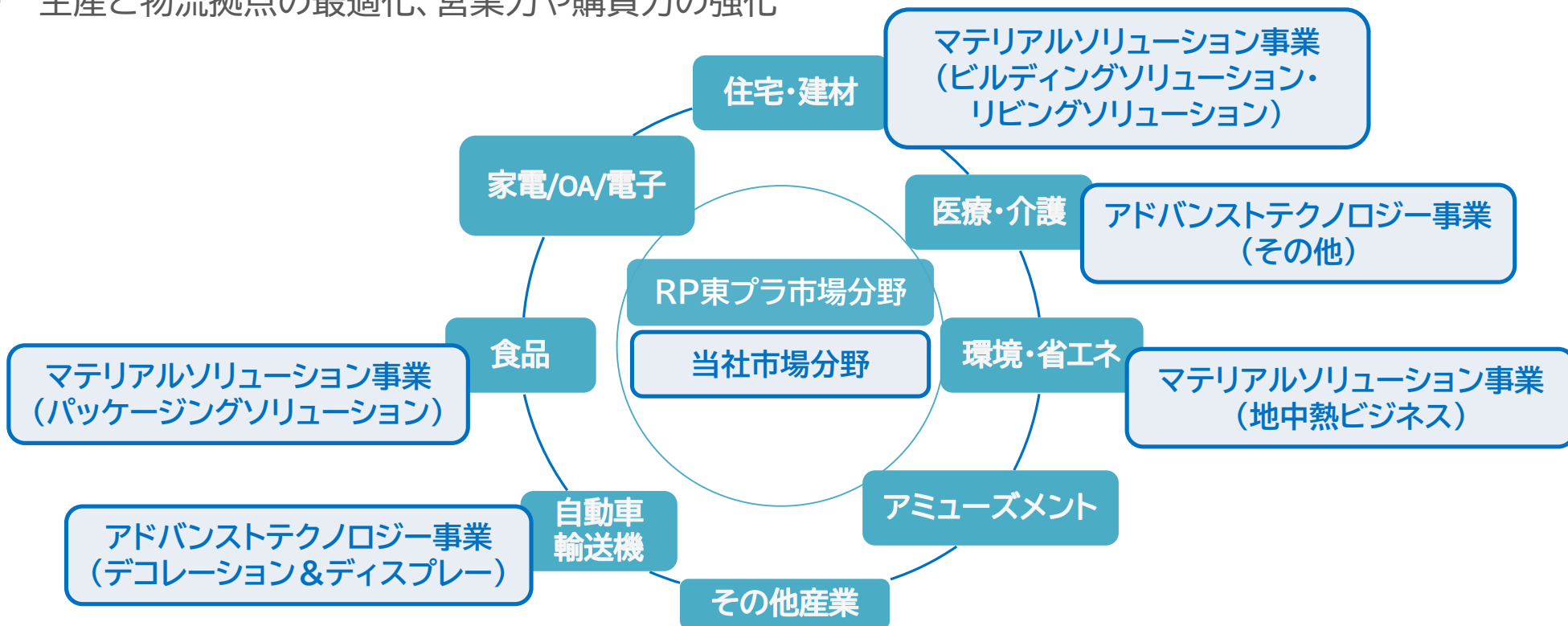
- アールピー東プラ株式会社との資本業務提携について
- 2023年3月期業績報告
- 2024年3月期業績予想(中期3か年計画の3年目)
- 株主還元
- APPENDIX

- アールピー東プラ株式会社(以下、RP東プラ)と資本業務提携契約を締結(5/12開示)
- 目的
  - RP東プラのアセット活用による収益基盤の強化と、事業シナジー創出による成長軌道を確保し、当社グループの事業拡大および企業価値向上
  - 提携の進捗に応じたさらなる関係強化の検討
- 同社株式20.32%を6月中に取得予定



会社名	アールピィ東プラ株式会社
資本金	943百万円
従業員数	(単独)329人(連結)639人(国内420/海外219)
営業拠点	東京、大阪、愛知
製造拠点	群馬、埼玉、滋賀、和歌山、北海道、大阪
海外拠点	インドネシア、ベトナム、マレーシア
2022年3月期 業績	連結売上高 23,141百万円 連結営業利益 1,084百万円 連結当期利益 882百万円
事業内容	IT・家電・輸送車両・住宅設備等、すべての産業分野向けの精密プラスチック成形 電子部品の搬送用・食品包装用・その他産業部材用等のプラスチックシートの製造・販売 プラスチック製品の設計・成形技術および機能性素材の開発提案

- 顧客開拓の協働や相互生産受委託の推進
- 環境貢献型製品の新規共同開発
- 既存事業の再構築による収益力強化
- 技術・ノウハウ・アセット有効活用による生産規模拡大
- アセアン市場開拓推進
- 生産と物流拠点の最適化、営業力や購買力の強化



# 2023年3月期業績報告

■ 売上高 22,584百万円(前年同期比+7.5%)

- 注力分野である自動車向け販売は大幅成長
- 原材料価格上昇分の売価転嫁
- 買い控えなどにより販売数量減

■ 営業利益 346百万円(前年同期比△46.7%)

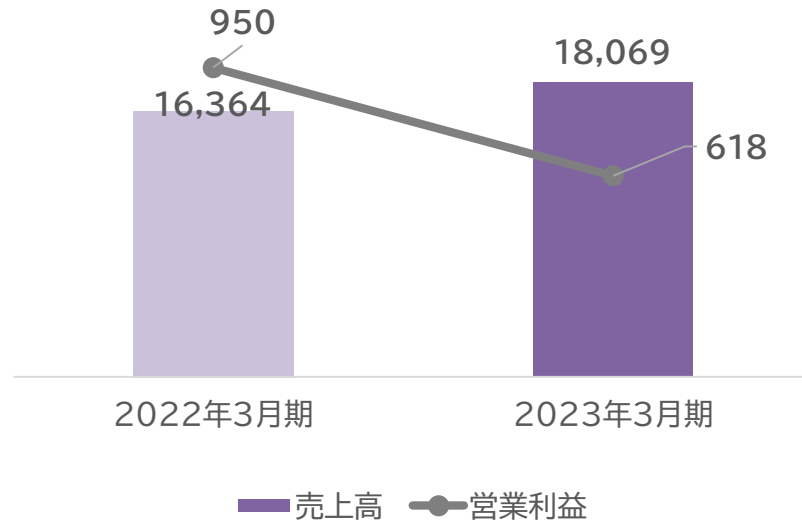
- 自動車向け販売は好調により増益
- 製造コストは売価転嫁分を上回り利益圧迫
- 販売数量減少などに起因し製造効率悪化

■ 当期純利益 2,321百万円(前年同期比+254.4%)

- クレアネイト(株)(旧(株)ウェーブブロックインテリア)の株式譲渡益(2,528百万円)

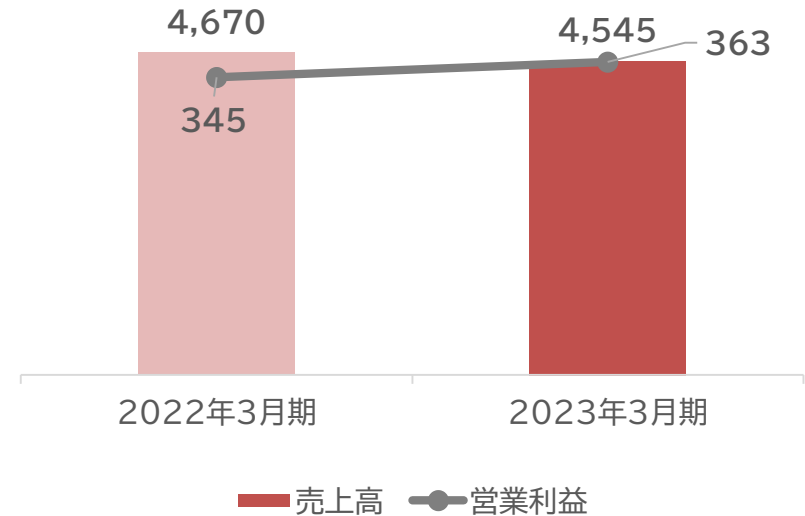
(単位：百万円)

## マテリアルソリューション事業



- 原材料価格上昇分の売価転嫁により増収
- エネルギーコスト上昇を含めた製造原価高騰は売価転嫁を上回り利益を圧迫
- 2021年3月期の巣ごもり需要からの反動減や物価高に伴う買い控えなどにより販売数量減少。生産数量減少し製造効率悪化

## アドバンステクノロジー事業



- 注力分野である自動車向け販売(デコレーション&ディスプレイ分野)は、北米を中心に好調
- 拡販に向け製造設備を新設増強。下期を中心に人件費、立ち上げコスト、償却負担が増加
- ディ스플레이用拡散板販売の大幅減収などによりその他分野は減益



# 2024年3月期業績予想 (中期3か年計画の3年目)

- 注力分野である自動車向け販売、地中熱ビジネスは成長を見込む
- 原材料価格の高止まりやエネルギーコスト上昇など厳しい事業環境が続く
- 為替差益、保険解約返戻金などがなくなるため経常利益は減少。株式売却益がなくなるため当期純利益も減少
- RP東プラの持分法利益を計上予定(影響額算定中のため本業績予想には未計上)

(単位:百万円)

	2023年 3月期 (実績)	2024年 3月期 (業績予想)	前期比 増減率	2024年 3月期 (中期計画)	中期計画比 増減率
売上高	22,584	24,500	+8.5%	24,500	-
営業利益	346	300	△13.3%	1,260	△76.2%
経常利益	718	340	△52.7%	1,530	△77.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,321	170	△92.7%	1,150	△85.2%

業績予想の前提

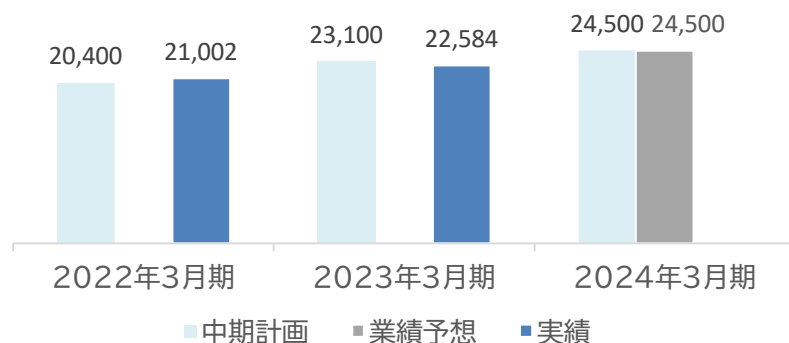
- ・ ナフサ価格:65,000円/kl (2023年3月期実績:72,500円/kl)
- ・ 為替:135円/USD (2023年3月期実績:135円/USD)

- 中期3か年計画の最終年度
- 売上高は想定どおりに推移
- 一方、営業利益は960百万円の未達を予想

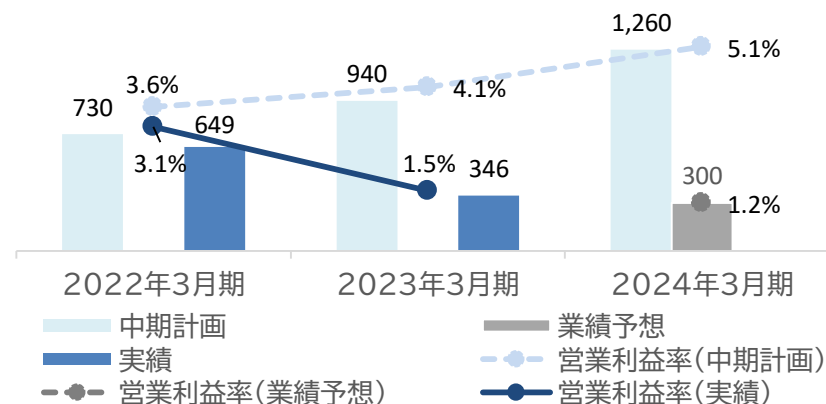
	未達額	要因
マテリアルソリューション事業	720百万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原材料価格およびエネルギーコスト上昇△460百万円</li> <li>・ 計画時からの需要減少など△260百万円</li> </ul>
アドバンステクノロジー事業	200百万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先行投資による減価償却費 など</li> </ul>

単位:百万円

## 売上高の推移



## 営業利益・営業利益率の推移



- 当社収益の基盤事業。基盤の更なる強化に加え、新規領域へチャレンジ
- 環境関連ビジネスと海外関連事業開拓への取り組み強化を3カ年計画の柱とする



地中熱ビジネスの展開

- 2023年3月期は拡販のための準備期間と定め、人材採用および教育に注力。設備工事を受注可能な(株)エイゼンコーポレーションの買収や人材採用など、体制構築は順調に進捗
- 2024年3月期は売上高700百万円、利益率の大幅向上を目指す

● 既存事業と地中熱ビジネスのシナジーの例



■ 地中熱関連工事売上高

(単位:百万円)



## 地中熱システム「ヒートクラスター®」を自社工場に導入

### 地中熱システム「ヒートクラスター®」を利用した空調管理

- 地中の熱エネルギーを有効活用し、工場内の空調電力負荷を低減

### CO2排出量と空調コストの削減が可能

- 年間約300トン(推定値)のCO2排出量削減
- 電力コスト削減により約4年で投資額を回収予定



導入したダイオ袋井工場(1964年設立 約35,868㎡)



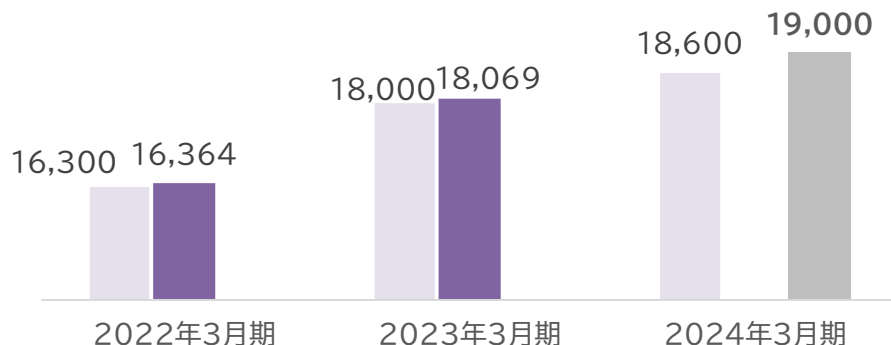
ダイオ袋井工場に導入した  
地中熱源ヒートポンプ



地下100~200メートルの熱を利用  
地産地消の熱エネルギー

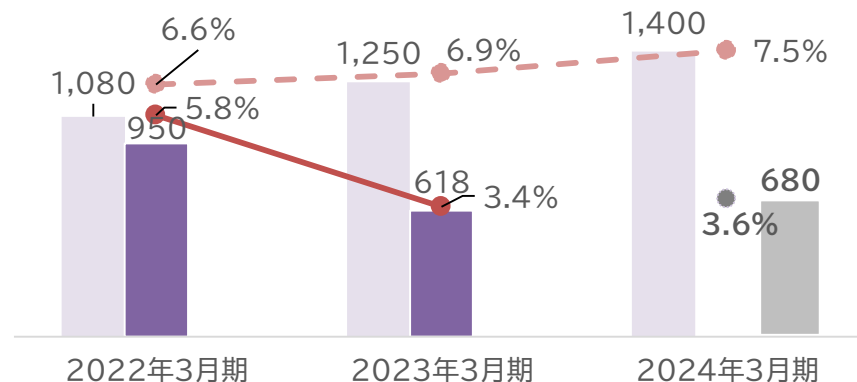
単位:百万円

## 売上高



■ 中期計画 ■ 実績 ■ 業績予想

## 営業利益



■ 中期計画 ■ 実績 ■ 業績予想  
 -●- 営業利益率(中期計画) -●- 営業利益率(実績) -●- 営業利益率(業績予想)

売上高 19,000百万円(前年同期比+5.1%)

営業利益 680百万円(前年同期比+9.9%)

- 注力分野である地中熱ビジネスが本格始動
- 営業利益面では2023年3月期、2024年3月期が底。2025年3月期以降の成長に向け、原材料価格の動向に左右されづらい事業への転換を目指す

技術とデザインによる品揃え拡充と、品質・ネットワークによる顧客サービスの向上で、自動車内外装プラスチック部品の市場成長を取り込む

戦略1. 技術開発・製造基盤の整備への投資

戦略2. 強固な品質管理システムの構築

対応

- 品質向上、生産能力増強のための投資を実行
- 品質管理体制強化のため、IATFを2023年3月期に取得

戦略3. 海外(北米・欧州・中国・印)の販売力強化

対応

- 実際に起きている事象を、足を運んで確認し、変化を掴むことにより、柔軟な営業戦略を構築
- マーケティング情報をタイムリーに技術チームにインプットし、開発、試作サイクルスピードを上げ、さらなる成長を目指す
- 北米、欧州、中国に加え、今後市場の拡大が見込まれるインドにも注力



## 自動車産業の国際的な品質マネジメント規格である IATF 16949を認証取得



※古河工場の登録証



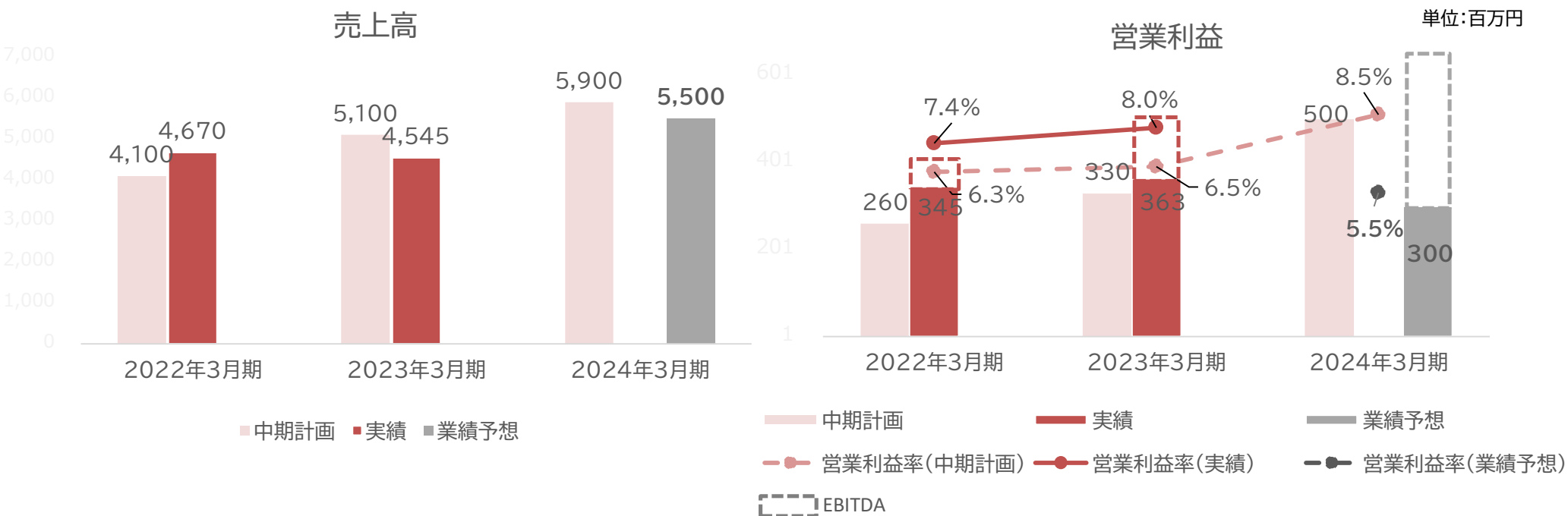
一関新工場の移転拡張



名古屋第二工場の新設



北米にパーツ成形拠点を新設  
北米自動車メーカーに対し、  
フィルムだけではなく、成形した  
パーツの製造販売を開始

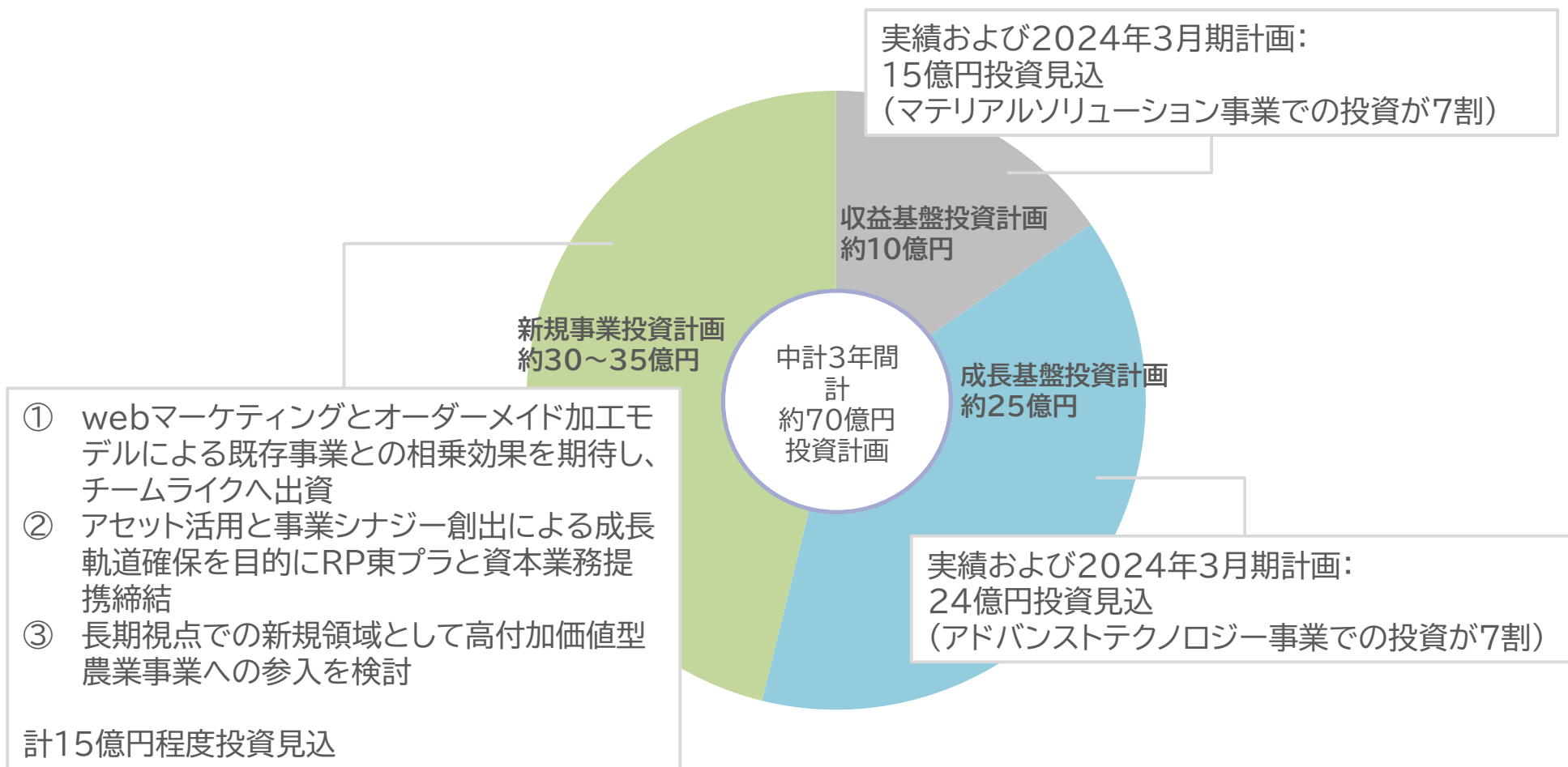


売上高 5,500百万円(前年同期比+21.0%)

営業利益 300百万円(前年同期比△17.4%)

- 注力分野である自動車向け販売(デコレーション&ディスプレイ分野)は引き続き成長を見込む
- 生産設備増強や北米でのパーツ製造開始などの先行投資費用や減価償却費負担増加により減益もEBITDAは増加(2022年3月期431百万円→2023年3月期518百万円→2024年3月期675百万円)
- 事業の成長により投資は3~5年以内に回収予定

## 2021年3月期から2024年3月期までの3年間に 重点領域を見極め、投資を実行



※投資金額は事業供用開始時を基準に記載

# 株主還元

## ■ 基本方針

- 配当性向35%以上を目安に、単年度の業績ボラティリティに左右されない安定的な配当を維持

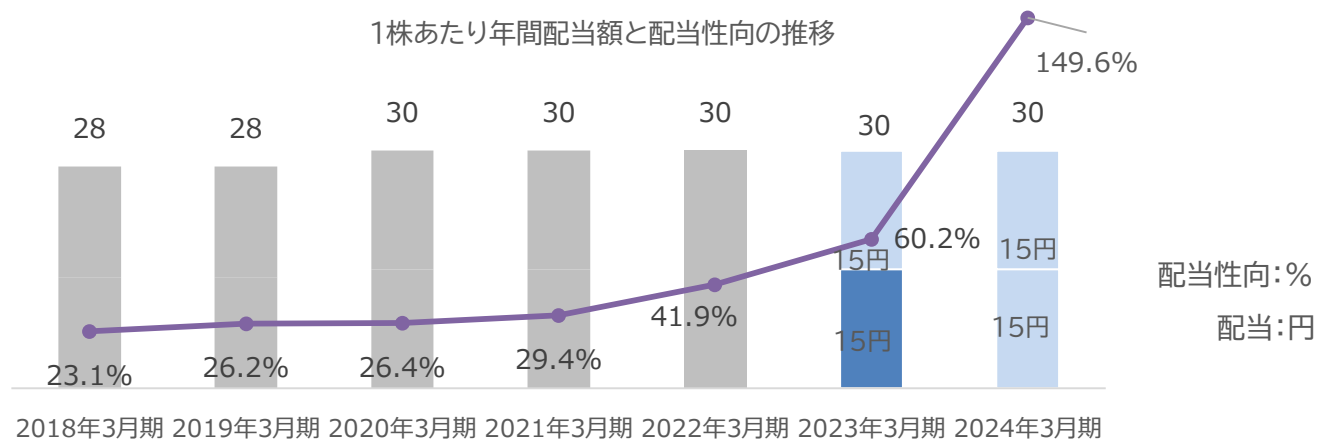
## ■ 2023年3月期 配当

- 通期30円(第2四半期末、期末それぞれ1株あたり15円)
- 配当性向:60.2%

(クリアナイト(株)(旧(株)ウェーブロックインテリア)株式譲渡による影響を除いて算出)

## ■ 2024年3月期 配当見通し

- 通期30円(第2四半期末、期末それぞれ1株あたり15円)
- 配当性向:149.6%



※ 2020年3月期までの配当性向は負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向(負ののれんは2020年3月期に償却が終了)

※ 2021年3月期および2023年3月期の配当性向はクリアナイト(株)(旧(株)ウェーブロックインテリア)株式譲渡による影響を除いて算出

# APPENDIX

(単位:百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (実績)	前期比 増減率	2023/4/25 修正業績予想	増減率
売上高	21,002	22,584	+7.5%	22,500	+0.4%
営業利益	649	346	△46.7%	340	+1.8%
経常利益	903	718	△20.4%	710	+1.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	655	2,321	+254.4%	2,310	+0.5%



(単位:百万円)

	2023年 3月末	前期末比		2023年 3月末	前期末比
資産合計	26,268	+2,012	負債・純資産合計	26,268	+2,012
流動資産	16,546	+1,524	負債	10,434	△ 59
現預金	2,453	+491	営業負債	2,740	△ 181
営業債権	5,717	△ 203	有利子負債	3,472	△ 669
棚卸資産	7,882	+1,328	未払法人税等	433	+339
その他	492	△ 92	その他	3,788	+451
固定資産	9,721	+488	純資産	15,833	+2,071
固定資産	8,436	+723	株主資本	15,605	+2,067
その他	1,285	△ 234	その他の包括利益他	227	+4

設備投資による有形  
固定資産

クリアネイト  
(株) (旧ウェー  
ブロックインタリ  
ア) 株式売却等

- 当期純利益純利益+2,321
- 配当支払い△254

- 自己資本比率 60.1%
- ROIC 1.3%
- ROA 9.2%
- ROE 15.7%

現金及び現金同等物 2,453百万円（2022年3月期末から491百万円増加）

(単位:百万円)

2023年3月期	
税金等調整前純利益	3,074
減価償却費	653
投資有価証券売却損益(△は益)	△ 2,528
運転資本増減	△ 1,223
その他	153
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>129</b>
固定資産の収支	△ 1,227
投資有価証券の収支	2,605
保険の解約による収入	354
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△ 349
その他	14
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>1,397</b>
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>1,527</b>
借入金の収支	△ 741
配当金の支払	△ 254
その他	△ 16
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,012</b>

クレアネイト(株)(旧:  
(株)ウェーブロックイン  
テリア)の株式譲渡

設備投資による固定資産の  
取得

- ・ クレアネイト(株)  
(旧:(株)ウェーブ  
ロックインテリア)の株  
式譲渡
- ・ (株)チームライクへの  
出資

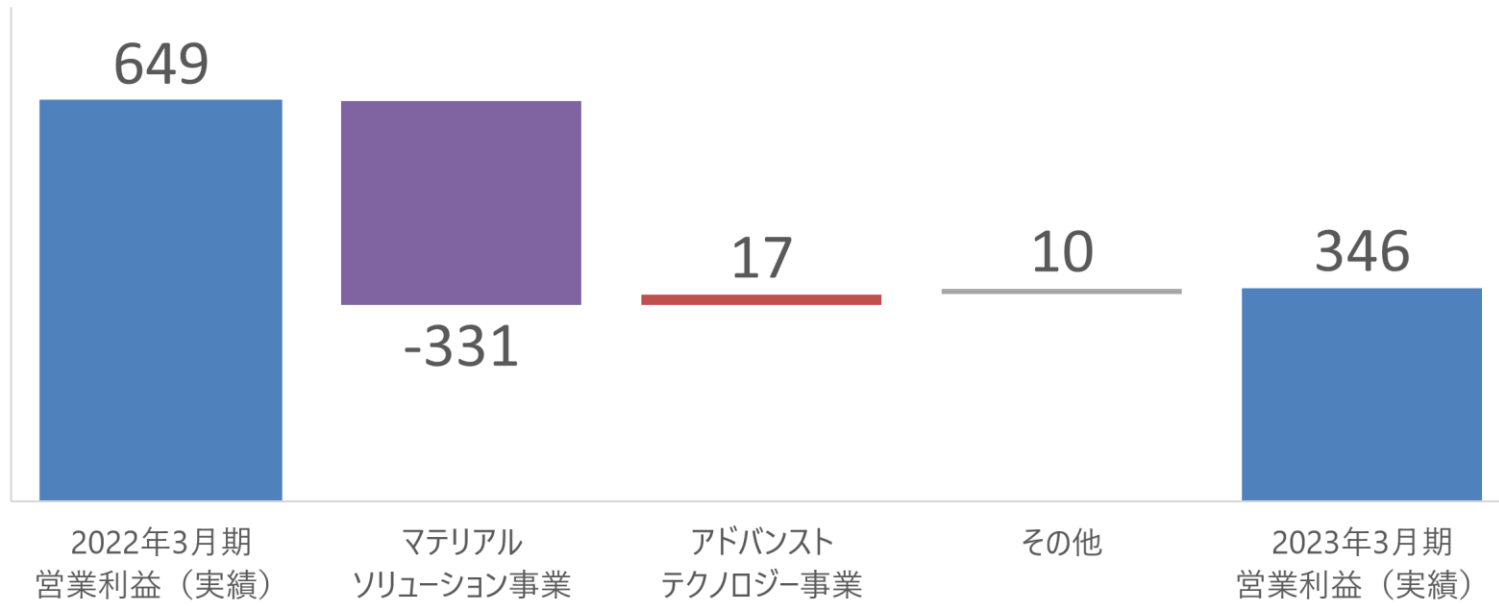
(株)エイゼンコーポーレ  
ーション株式の取得

(単位:百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (実績)	前年同期比 増減率
<b>売上高</b>	21,002	22,584	+7.5%
マテリアルソリューション	16,364	18,069	+10.4%
アドバンステクノロジー	4,670	4,545	△2.7%
その他の	△32	△29	-
<b>営業利益</b>	649	346	△46.7%
マテリアルソリューション	950	618	△34.9%
アドバンステクノロジー	345	363	+5.1%
その他の	△645	△635	-

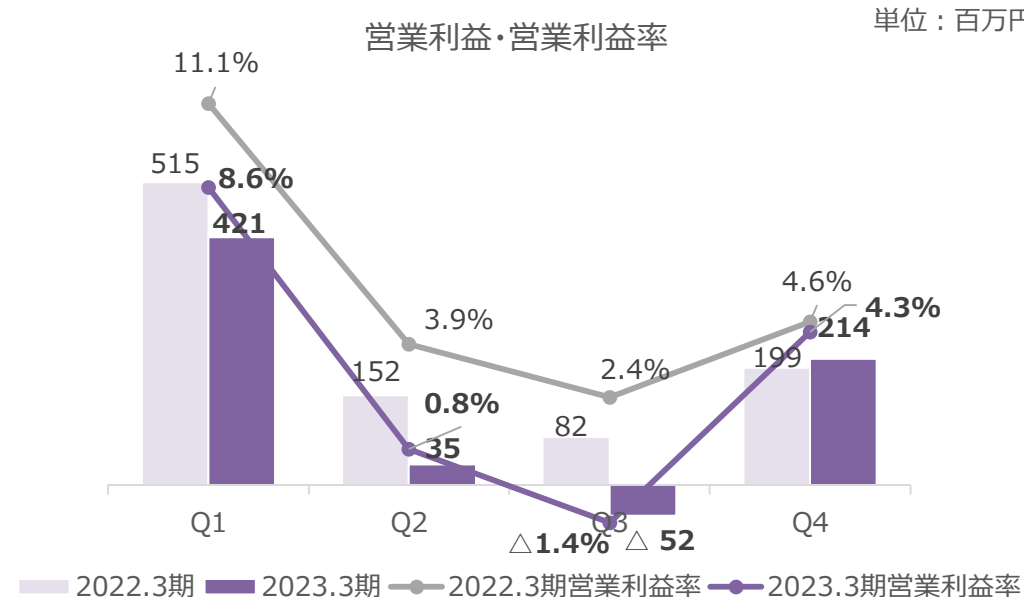
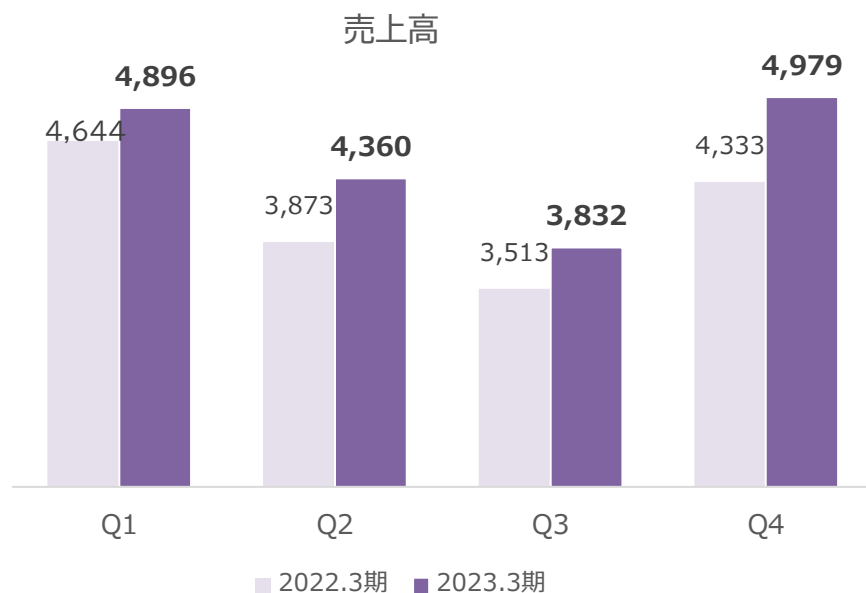
# 営業利益 増減要因(前年同期比)

(単位:百万円)



- 原材料価格上昇分の売価転嫁による利益増+1,123
- 原材料価格およびエネルギーコスト増加による利益減△1,177
- 販売数量減など製造効率悪化による利益減△242

- 自動車向け販売の増加による利益増+402
- その他事業の販売減少などに伴う利益減△124
- 人件費や減価償却費、新設設備の立ち上げ費用増加による利益減△266



## リビングソリューション:

- ホームセンター向け販売は引き続き一昨年の巣ごもり需要からの反動減に加え、ホームセンター自体の客足が伸びず、減収減益

## ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション:

- 建設・仮設工事向けメッシュシートのOEM生産切り替え遅れや一部撤退により販売減。防音シートや、大型商業施設向けの防煙垂壁用高透明不燃シート販売の好調がカバーも、原材料価格上昇分の売価転嫁遅れ等より減益

## パッケージングソリューション:

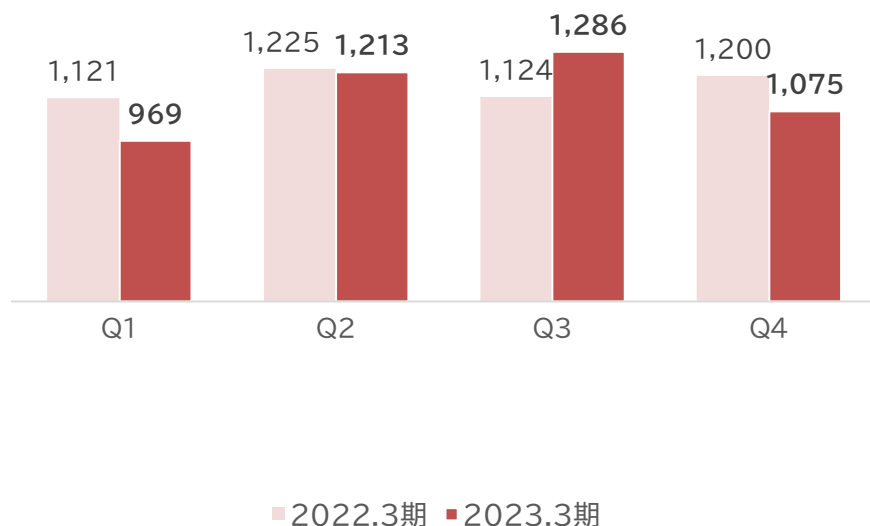
- 原材料価格上昇分の売価転嫁により増収も、エネルギーコストを含めた製造原価上昇分の売価転嫁遅れ等により減益

## アグリソリューション:

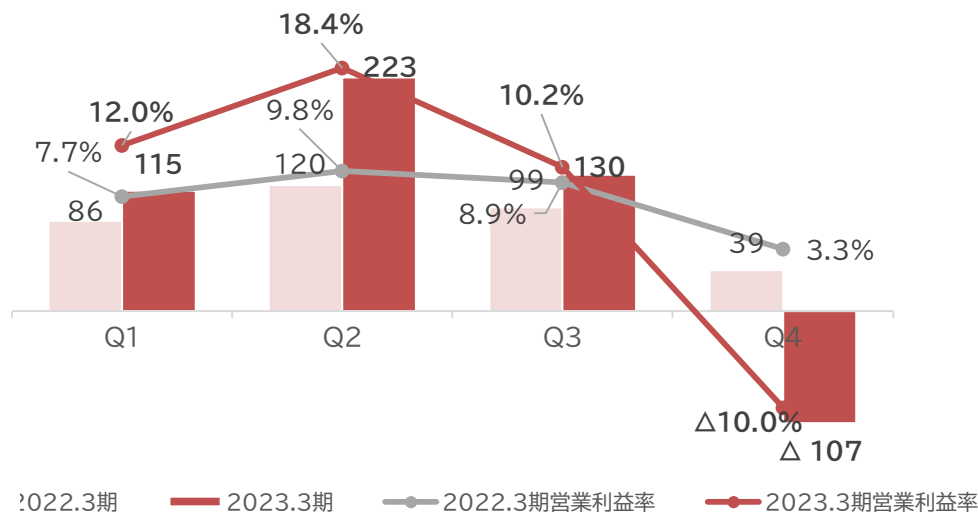
- 輸入資材である土壌改良剤や林業向け資材は好調に推移するも、エネルギーコスト上昇等により国内農業従事者の投資意欲が減退傾向にあり、農業資材が低調

単位:百万円

### 売上高



### 営業利益・営業利益率



## デコレーション&ディスプレイ:

- 自動車向け金属調加飾フィルム販売が好調に推移。北米自動車メーカーおよび北米EVメーカー向け採用車種は本格量産へと移行し好調。加えてインド・東南アジアにおける二輪車向け販売も採用拡大により続伸した。上期低調だった国内メーカー向け販売は回復
- 自動車向け内装ディスプレイ用途の高透明二層シートにおいては、先進運転支援システムの開発ツールとして期待されるVRヘッドセット用部材販売は好調に推移するも、自動車向け販売は半導体不足の影響を受け前年同期比減。一関工場移設に伴う工場稼働停止に備えた備蓄生産を11月中旬まで実施したことにより第3四半期までの利益を押し上げ
- 第4四半期は製造拠点の立ち上げコストや減価償却費負担が発生

## その他:

- ディスプレイ用拡散板は一昨年からの巣ごもり需要の反動減等を受け大幅減収。一部原材料の使用停止に伴う評価減を計上

本資料における見通し等は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。  
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。